

＝ 魂を吹き込もう ＝

2月1日、月例の安全祈願(執務室内にある神棚に)を行なった。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る。という言葉もある。あつという間に時は経つ、AP18春季取り組みもスタートするが、それぞれの活動計画を再度見つめ直し、確実な運動の実践」を全役・職員に促した。

そして、2月7日、第15回中央委員会を開催。冒頭のあいさつで、あらためて諸課題に対する決意を述べた。「昨今、多くの場で使われはじめた好循環は、基幹労連を創ろうとした先達の発想と、それを実践的に進めてきた基幹労連の2年サイクル運動の基軸に他ならない。労働政策をはじめ、基幹労連政策として内に外に好循環の輪を回し、全組織一丸となった行動で運動を進めることが総合生活の改善につながり、その先にある組合員とその家族の幸せを実現するものである。」

いよいよAP18春季取り組みが始まる。基幹労連は結成以来、好循環論を掲げ、AP春季取り組みにおいては、好循環・人への投資・その最たるものは賃金改善という考え方を持ちながら、賃金のみ固執することなく時々の情勢を見極めつつ、あらゆる角度から人への投資を求めてきた。

AP18春季取り組みにおいては、経済指標に示される数値とは程遠い生活実態のもとで、経済の好循環の軸を握る個人消費をどのように回復基調へと導くのか、また超少子高齢社会のもとで働き手・人材の確保をどう進めていくのか、格差改善、底上げ・底支えという足元の課題はもとより、育児、介護をはじめ、年金や健康保険など「社会保障と税」という将来不安の払拭への取り組みも労使の課題である。個々の課題解決は、決して容易なことではないが、人への投資の在り様を労使がそれぞれの立場から真摯に議論し、互いのもうひと踏ん張り好循環の形を造り上げていかなければならない。

ところで、1月22日、東京では4年ぶりの大雪となった。時あたかも野党の分裂騒ぎでやきもきしている最中だけに、「雨降って地固まる」の言葉を借りて、雪降って原点に立ち戻るとはならないものか。真っ白な気持ちに立ち戻り、働く者・生活者を基軸に自民党に対峙する政党として、国会議員として立ち上がった魂を思い起こしてほしい。魂とは、「云う」という字に「鬼」が付く。自らを叱咤しながら国民に支持される政党・議員となることを期待せずにはいられない。

このことは、私たちの労働運動にも言えることである。死亡災害の連鎖が止まらない。労働運動の基軸は仲間の安全と健康にあるということは皆の共通認識のはず。AP18春季取り組みをしっかりと土俵の上で、正々堂々の議論で好循環を導き出していかなければならないが、その土俵こそ安全と健康あつてのものである。

仲間の命を守るために、労使を問わず時に鬼となって厳しい指摘(云う)を行なつてこそ、魂の「ご安全に」である。まずはAP18春季取り組み期間を無災害で乗り切り、より良い結果を導き出そう。ご安全に。

2018年2月8日
日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一